

焼き鳥屋では、店主と客がWBRを肴に酒を飲んでいた……

以前の営業記録       
ほぼ白紙の帳簿     

前夜祭・幻想郷編       
前夜祭・研究所編       
斬れなかった編     

KFC!!!

「え、まだ生きてたのか、このコーナー」  
「そうみたいですよ」  
「なんてこったい、何もネタを用意してないぞ」  
「**そんな出だしで大丈夫か？**」  
「大丈夫じゃない、**問題だ**」  
「ザッ、ザッ……」  
「お邪魔するよ」  
「おう、いらさい、何にするんだ？」  
「何にするって、焼き鳥しかないじゃないか」  
「ちょっと、そこは『一番いいのを頼む』でしょう！」  
「……？なにを言っているんだ、この**緑**は」  
「理想と現実のギャップの間でキャラを模索する少女の世迷い言だ。気を付けろよ、触れると一瞬でヤケドしてしまうぞ」  
「ふうん」  
「くっ、なんてスレた子どもなんでしょう……！」  
「なんてズレた神様なんだろうな」  
「まあ、串を**爪楊枝**として使うくらいだからな、この**緑**は」  
「妹紅さんまで……！」  
閑話休題エ……  
「で、うちの**緑**じゃない**軍曹**が予選を突破しているみたいなんだが」  
「ふうん、良かったじゃないか」  
「1シーズン目以外はボロボロだったような気がするんですけどねー」  
「不思議なこともあったもんだな。しかし**愁随**さんも突破だぜ？これは来てるぞ」  
「このまま**不死鳥使い**に**バオー**、**ノエル**、**霞の目博士**と来たら面白そうだね」  
「おっと、**餓竜**の悪口はそこまでですよ！」  
「待て、おまえが一番ディスってんぞ」  
「そんなことはありませんよ！」  
「ところで、A組のあいつだけどさ」  
「ああ、やっぱり今回も駄目だったよ、**あいつ**は仮面ライダーだからな」  
「これは、**彼**もピンチですね……！」  
「あいつには72通りの技があるから、大丈夫だ、問題ない」  
「死亡フラグだろう、それ」  
「な!? やっぱり通じてたんじゃないですか！」  
「なんのことだろうね、私にはさっぱりだよ」  
緑と山吹の仲はあまりよろしくないようだ。

VIVIVI VICTORY!

「コーンパイーン 1、2、3！」  
「4、5、出撃だー」  
「大地をゆるがす 超~電磁ロポ~」  
「というわけでだ、あろうことが、そう！あろうことが！うちの**軍曹**が優勝しちゃったんだが」  
「一大事ですね！と言いたいところですが、それもこれも私の**奇跡の力**があってこそ！」  
「へえへえ」  
「わかりますか？この私こそが、全てを操りし者、軍曹は優勝の喜びをかみしめる前に、私に土下座とかするべきなのです！」  
「どこの隠しボスだ、それ」  
「私の戦闘力(B size)は**(ピーー)**です、ってかき消されましたよ!？」  
「そりゃあなあ……いくらなんでもその数字はリアルすぎてダメだぜ、**夢**が壊れる」  
閑話休題。  
「いやあ、しかし今回は逃げ切れないほどのいい勝負でしたね」  
「**バオー**と**エイト**、軍曹、なんとも凄まじいデッドヒートだったな。攻撃重視が2人だぜ？」  
「ええ、**こまち**や**シェゾ**、**サタン**がいる中で、このメンツとは驚きですね！」  
「17勝のこまちに、ベルト持ちのシェゾにサタン、まくられるんじゃないかと、みんなヒヤヒヤしてたはずだぜ」  
「エイトもそうですけど、やっぱり一番大きいのは、**バオー**に勝てたことですね！」  
「ああ、うちは**まふっとさん**にはトコトン弱いというジンクスがあったからな、今回も負けるかと思ったぞ」

「まあ、直接対決ではボロ負けしてますけどね。ほら、こういうのを **神敗退** と言うんですよ、きっと」  
「むしろ歴史的敗退だな。最低と最高を同時に取るなんて、欲張りなオッサンだよ、あいつは」  
「ところで、初の二次創作キャラ(?)の優勝なんですよ、これ」  
「たしかに、今までは全部原作に忠実な面々だったからな……って、8回中でシェゾ4回にサタン1回!?」  
「またまたあ、今さら何を言ってるんですか～。キングの名は伊達じゃないですよー」  
「恐ろしい話だな」  
「あ、今大会で大活躍した、最大の **立て役者** が来てくれるみたいですよ」  
「は？ オッサンが来るのか？」  
「ささ、どうぞここにー」  
「……え!? 誰だよおまえ!?」  
「またまたあ、とぼけちゃって、**1さん** ですよ」  
「1……？」  
「はい、六回にもわたって王座を守り続けた無名の猛者、1さんです」  
「……」  
「……」  
「**ええええええええええ!?**」  
「彼が頑張っていなかったら、この結果は無かったかもしれないのです……」  
「いや、それはそうだけどな」  
「というわけで、1さんに乾杯！」  
「釈然としないなア、私は！」

### 【店を出る】